

岩手県の土地改良



令和3年度「農村景観」写真コンクール人物部門 入賞作品
「チャグチャグ馬コ初詣」

No. **588** 2022.1



Details

- ・ 新年のご挨拶
岩手県土地改良事業団体連合会会長 大宮 惇幸 2
- ・ 新年にあたって
全国土地改良事業団体連合会会長 二階 俊博 3
- ・ 新年のご挨拶
都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問
参議院議員 進藤 金日子 4
- ・ 新年のご挨拶
都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問
農林水産大臣政務官 参議院議員 宮崎 雅夫 5
- ・ 令和4年度農業農村整備関係予算の概算が決定 6
- ・ 岩手県へ農業農村整備の着実な推進を要請 6
- ・ 高橋隆氏が岩手県農林水産業表彰の栄誉に輝く 7
- ・ 令和3年度水土里ネット役員研修会開催 8
- ・ 令和3年度絵画・写真コンクール入賞作品が決定 9
- ・ 土地改良区だより(水土里ネットてるい) 10
- ・ 編集後記



新年のご挨拶

岩手県土地改良事業団体連合会
会長 大宮 惇 幸

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、心新たなる新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

一昨年から続く、新型コロナウイルス感染症によって、我が国のみならず世界全体が大きく変化しておりますが、そうした中であっても変わらずに、農業農村整備事業の推進に多大なご尽力をいただいていることに厚く御礼を申し上げます。

今年の干支である「壬寅」の年は、厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となる年とされています。この壬寅がもつ意味のように、厳しいコロナ禍が一日も早く収束し、この一年が、会員皆様方にとって新たな発展の礎となる年となるよう強く願っております。

さて本県は、ほ場整備事業の導入を契機として高収益作物の導入や農地の集積・集約化等の農業の成長産業化に向けた取組が進められておりますが、一方、農地の約8割を中山間地域が占めており、また、農業水利施設の整備を優先してきたという事情などから、現在の水田整備率は、東北管内で最も低い状況です。

このため、効率的で低コストな営農の実現による収益力の高い産地づくりに向けて、水田の大区画化や汎用化を進めるほ場整備事業を推進していくことが本県の最重要課題であることから、本連合会は、ほ場整備事業などの調査計画業務において、ドローンなどの新技術も駆使しながら、地域条件等に応じた事業計画の策定等を進めるとともに、換地計画の作成や確定測量等の業務等の円滑な実施に努め、今年も引き続き、県内各地で進められている農業農村整備の推進に貢献してまいります。

また、国土強靱化に向けた取組の加速化・深化を図るため、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が進められており、本連合会としても、農業用ため池の防災対策の強化や、農業集落排水施設をはじめとする農村インフラの強靱化・高度化に向けた取組を、県や市町村、土地改良区と連携しながら進めてまいります。更に、気候変動の影響により、頻発化・激甚化する大規模自然災害に対し、流域全体のあらゆる関係者が一体となって治水対策に取り組む「流域治水」が全国各地で始まっています。農業分野においては、農業用ダムの活用に加え、下流域での洪水の防止・軽減に向け、一時的に水田に雨水を貯留する「田んぼダム」の取組が効果的であることから、県や土地改良区などと連携し効果の検証などを進めてまいります。

これらの事業を進めるために必要な予算についてであります。国の令和4年度農業農村整備事業関係予算として、令和3年度補正予算と令和4年度当初予算を合わせ6,300億円（うち15億円は、デジタル庁計上）と、本年度と同水準の予算が昨年12月に閣議決定されました。

この予算の内容を見ますと、農業の競争力強化や農村地域の国土強靱化を図るため、農地の大区画化・汎用化、防災重点農業用ため池の防災・減災対策等を重点事項として進めることとされております。このうち、「土地改良施設維持管理適正化事業」については、土地改良施設に係る防災・減災、省エネ化等のための整備を促進する「防災減災機能等強化対策」が新たに創設されます。本対策は施設整備はもとより土地改良区運営の合理化や効率化にも大きく貢献するものでありますので、土地改良区等の施設管理者が円滑に対策を進めることができるよう支援してまいります。

新型コロナ対策などによる厳しい財政状況の中、令和4年度は本年度と同水準の予算が確保される見通しとなりましたが、当初予算を見ると、依然として大幅削減前を下回っております。農業者の要望に応え計画的な事業推進を図るためには、安定的な当初予算の確保が必要不可欠であることから、全国水土里ネット会長会議顧問である進藤金日子議員と宮崎雅夫議員の一層のご活躍を期待したいと思います。そして、勝負の年を迎える進藤議員が、次なるステージに歩みを進めることができるよう心から願っております。

本連合会としても、当初予算の確保と補正予算の継続的な措置に向け、財務省や農林水産省をはじめとする各省庁、県への要請活動を、引き続き展開してまいりますので、会員皆様方には、ご理解とご協力をよろしくお願ひします。

結びに、会員皆様方が、ご健勝にてご活躍いただきますことをご祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。



新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊博

令和4年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が世界各国で拡大する中で、新しい年を迎えることとなりました。世界的に変異株の感染が拡大し予断を許さない状況が続いております。

皆様には、感染防止のためにできることを今一度ご確認いただき、コロナ禍を共に乗り越えて頂きたいと願っております。

さて、昨年3月に新たな土地改良長期計画が策定され、3つの政策課題に取り組むこととされました。生産基盤の強化による農業の成長産業化、多様な人が住み続けられる農村の振興、農業・農村の強靱化といった政策課題に対して具体の施策が定められ、中でもスマート農業実装の加速化、ため池の防災対策の集中的かつ計画的な推進、流域治水の推進は、今後の農業農村整備を進める上で大事な要素となってくるものです。

令和4年度予算につきましては、これらの政策課題の解決に向け、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案において、4,468億円を確保することができました。この結果、令和3年度の補正予算を含めると6,300億円となります。

皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

一方、第5次男女共同参画基本計画に続き土地改良長期計画においても土地改良区等の女性理事登用が成果目標とされたところであり、我々、土地改良団体においても将来の組織体制強化のためにも、女性参画を進めていかなければなりません。

私たち土地改良に携わる者としましては、政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におき農業農村の振興に積極的に貢献していくことが重要であると考えております。また、農業農村の維持、発展に大きく貢献していることについて広く国民の皆様にもアピールし、共感を得ていく努力も必要であります。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう引き続き奮闘して参りたいと思っております。

また、土地改良の代表として進藤金日子参議院議員と宮崎雅夫参議院議員が元気に全国を飛び回り、まさに「車の両輪」となって活躍されています。本年は進藤さんの2回目の闘いとなりますが、今後は、進藤さん、宮崎さんの活動と連携して、更に一層「闘う土地改良」の浸透が図られるよう念じております。

最後になりますが、輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様各々の地域において更に農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、新型コロナウイルスの不安が払拭され、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げます。私の新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問
参議院議員 進藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は、岩手県の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。本年も何卒宜しくお願い致します。

私も皆様にご支援をいただき国政に送り出していただいてから、早5年半が過ぎました。土地改良予算の動向を報告し、私なりの政治スタイルを再確認しながら次のステップを展望してみたいと思います。

昨年末には、令和3年度補正予算が臨時国会において可決、成立しました。土地改良予算は、総額1,832億円（TPP等対策：774億円、米対策：46億円、国土強靱化5か年加速化対策：1,012億円）です。令和4年度当初予算政府原案での土地改良予算は4,468億円（令和4年度からデジタル庁計上となる政府情報システム予算を含む。）であり、令和4年度の予算額は補正と当初を合わせて6,300億円となり、本年度と同水準の予算が確保できる見通しとなりました。

主な事業制度の新規・拡充事項としては、①農家負担がゼロの「農地中間管理機構関連農地整備事業」の工種に農業水利施設や農道、暗渠排水等を追加（現在は区画整理と農地造成のみ）、②「農地耕作条件改善事業」の助成対象に田んぼダム導入に係る調整活動や畦畔補強等とともに除草機器を追加、③省エネ化・再エネ利用に取り組む「かんがい排水事業」の事業費要件や末端要件を緩和、④「土地改良施設維持管理適正化事業」に「防災減災機能等強化対策」（防災・減災機能の強化、施設管理の省エネ・再エネ利用や省力化を図るための施設整備）を新設（国費率を従来の30%から50%に嵩上げ）、⑤「土地改良区体制強化事業」の助成対象に小規模土地改良区の業務再編を追加することなどが挙げられます。

私は、これまで全国津々浦々を訪問し、現場の実情を視て、現場の声を聴いて、それらを国政の場に届け、課題解決の実現に努めて参りました。私自身、現場目線、国民目線での政治こそが、いま強く求められていると痛感しています。こうした活動が事業制度の新規・拡充要求に繋がっているものと確信しています。岩手県内にも度々訪問し、色々なご指摘や多くの要請をいただきました。こうした現場の声を真摯にお聴きし、改善できるものはすぐに改善し、事業制度の新規・拡充に繋げる必要があるものは次年度の予算要求に反映できるように更に努力して参ります。

全国各地の農業・農村は多様であり、それ故に各種要請の内容も多様です。引き続き同志の宮崎雅夫議員と力を合わせ、必要な予算の確保とともに、現場の課題解決に直結する制度構築等に全力で取り組んで参ります。今後とも、これまでの政治スタイルとスタンスを変えることなく、泥臭く鈍重でも、急峻な斜面を一步一步踏み締めて前進する牛のように精進し、現場が抱えている課題を一つでも多く解決できるように結果を出して参る所存です。

皆様からお預かりした参議院議員の任期も残すところ7か月余りとなりましたが、まずは貴重な任期を一日たりとも無駄にすることなく政治活動に全力投球して参ります。そして、次のステップに進むためには改選という高く厚い壁を超えなければなりません。私自身、この壁の突破に専心努力して参る覚悟ですので、皆様の引き続きのご指導とご支援を心からお願い申し上げます。皆様の益々のご健勝とご活躍を心からお祈りいたしております。



新年のご挨拶

都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問

農林水産大臣政務官

参議院議員 宮崎 雅夫

岩手県土地改良事業団体連合会会員各位ならびに関係の皆様にご挨拶を申し上げます。旧年中は多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

昨年10月に発足した岸田内閣ならびに11月発足の第2次岸田内閣において、農林水産大臣政務官を拝命いたしました。これも偏に岩手県の皆様ならびに、進藤金日子参議院議員はじめ先輩国会議員のご指導とご支援によるものであり、本年も新たな気持ちで現場主義に徹しつつ皆様のご意見をお伺いしながら一層努力して参る所存ですので、引き続きご指導をお願いいたします。

さて、ここ2年に亘り農林水産業はじめ各方面に影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症は、新たな変異株による感染拡大の昨今の状況から決して油断することはできません。

経済安全保障の重要性が叫ばれる中、食料の多くを輸入に頼る我が国にとって食料安全保障の確立は重要であり、そのためには我が国の農林水産業の持続的発展が不可欠です。

こうした中で、昨年末に令和4年度当初予算案が閣議決定され、また、臨時国会で令和3年度第1次補正予算が成立し、農業農村整備事業関連予算として合計6,300億円を確保することができました。

令和4年度当初予算では、前年度当初を上回る4,468億円を確保し、農地の大区画化、水利施設等の老朽化対策や流域治水等を推進することとしています。また、令和3年度補正予算では、TPP対策や防災・減災、国土強靱化対策加速化に必要な1,832億円が計上されており、全国の皆様のご要望にしっかりと応えできる規模となっています。

また、これから国会で議論される令和4年度当初予算に関連して、土地改良法の改正案を検討することとしており、主な事項としては、ため池等の急施の防災事業に豪雨対策を追加すること、農地中間管理機構関連農地整備事業の対象に農業用水路等を追加すること、市町村や土地改良区が実施する防災対策事業へ土地改良事業団体連合会による技術的支援等を可能とすること、また、組織の維持が困難となった小規模土地改良区について、法人格を維持しながら認可地縁団体等に移行できる規定を設けることなどが予定されています。予算と制度が車の両輪となって土地改良の効果が確実に発現できるよう、引き続き進藤金日子議員とともに頑張る所存です。

これからも皆様とともに土地改良を推進するため、岩手県とも縁の深い進藤金日子議員と一緒に国政で取り組んで行けるよう、岩手県の皆様のご支援をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様お一人おひとりご家族にとって素晴らしい一年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

令和4年度農業農村整備関係予算の概算が決定

—当初予算は、対前年度比 100.5%—

農業農村整備事業関係予算の令和4年度当初予算は4,468億円となりました。

また、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」や米の臨時特別対策として令和3年度補正予算において1,832億円を計上し、これらの総額は6,300億円（政府情報システム予算を除いた総額は6,285億円）となります。

	令和3年度 当初予算	令和4年度 当初予算 A	令和3年度 補正予算 B	合計 A+B
農業農村整備事業(公共)	3,333 (3,317)	3,337 (3,322) <100.1%>	1,832	5,169 (5,154)
農業農村整備関連事業(非公共) 農地耕作条件改善事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業 農山漁村振興交付金	518	540 <104.3%>	-	540
農山漁村地域整備交付金(公共) (農業農村整備分)	595	591 <99.5%>	-	591
計	4,445 (4,430)	4,468 (4,453) <100.5%>	1,832	6,300 (6,285)

注1：表の（ ）書きは、政府情報システム予算15億円を除く。

注2：計数は四捨五入しているため、端数において合計と一致しないものがある。

岩手県へ農業農村整備の着実な推進を要請

—「収益力の高い食料・木材供給基地」と「一人ひとりに合った暮らし方ができる農山漁村」の実現に向けて—

12月22日、本会は佐藤隆浩岩手県農林水産部長に対し、「農業農村整備の着実な推進に関する要請」として、「令和4年度当初予算の確保、更なる水田の利活用に向けたほ場整備の推進、土地改良区の運営体制強化に向けた取組の強化」の3点について要請を行った。

要請に対し、佐藤農林水産部長から、「本県は、他県に比べて水田整備が遅れている状況にあることから、ほ場整備を推進していく必要がある。このため、国に対して要望活動を展開し、必要な予算確保に努め継続地区の早期完了を目指し

ていく。また、土地改良区の運営体制強化を図るため、複式簿記の導入に向けた支援や、ドローンを活用した施設管理の省力化などに引き続き取り組んでいく。」とコメントをいただいた。



【佐藤農林水産部長へ要請書を手交】

高橋 隆氏が岩手県農林水産業表彰の栄誉に輝く —令和3年度いわて農林水産躍進大会にて—

12月24日、サンセール盛岡において、『令和3年度いわて農林水産躍進大会』（いわて農林水産振興協議会・岩手県共催）が開催された。

大会では、「岩手県農林水産業表彰」、「岩手県農地・水環境保全向上活動モデル賞」及び「岩手県アドプト活動モデル賞」の授与が行われ、県内各地より参集した関係者約130名から受賞者へ盛大な拍手が送られた。

岩手県農林水産業表彰

永年にわたり農林水産業に関する団体の運営や協同組織の育成又は農林水産業の技術向上発展に尽力され顕著な功績があった方を表彰するもので、高橋隆鹿妻穴堰土地改良区理事長ほか5名が受賞した。



〔高橋隆 鹿妻穴堰土地改良区理事長(中央)〕

岩手県農地・水環境保全向上活動モデル賞

「農地・水環境保全向上活動」とは、地域共同の力で農地や農業用水等の地域資源と農村環境を保管理する取組で、本県では平成19年度から活動が展開されており、県内の模範となる優れた取組を行っている1団体が受賞した。

受賞団体

かみにしね はっちょうの
上西根・八丁野環境保全の会（雫石町）



〔松本光正 上西根・八丁野環境保全の会代表(前列)〕

岩手県アドプト活動モデル賞

「アドプト活動」とは、農業水利施設の適切な管理に向け、施設管理者と地域・企業などが協定を締結し、協働で施設等の保全活動を行う取組で、本県では平成15年度から活動が展開されており、県内の模範となる優れた取組を行っている4団体が受賞した。

受賞団体

実施団体	協定団体
<small>みなみざわ</small> 南沢 宮農組合(一関市)	市野々土地改良区
<small>かなもり</small> 金森環境保全会(北上市)	岩手中部土地改良区



〔佐藤直美 南沢宮農組合組合長(前列左)、
千葉大作 市野々土地改良区理事長(前列右)〕



〔小林理恵 岩手中部土地改良区主査(前列左)
(石母田れい子 金森環境保全会代表の代理)、
及川哲朗 岩手中部土地改良区理事長(前列右)〕

令和3年度水土里ネット役員研修会開催 －土地改良区の管理運営基盤の強化に向けて－



1月20日、本会は、サンセール盛岡において『令和3年度水土里ネット役員研修会』を開催した。

開会にあたり、大宮惇幸本会会長が「国の農業農村整備事業関係予算は、令和3年度補正予算と令和4年度当初予算を合わせ本年度と同水準の予算が閣議決定されたが、計画的な事業推進のためには更なる予算確保が必要。引き続き関係機関への要請活動を展開していく所存であります。」と挨拶した。



【主催者挨拶する大宮会長】

次に、佐藤隆浩岩手県農林水産部長の代理として出席した千葉和彦岩手県農林水産部農村整備担当技監兼農村計画課総括課長から「県では、土地改良区の運営基盤の強化を図るため、引き続き維持管理の省力化に向けた施設整備や複式簿記の定着に向けた取組などについて支援してまいります。」と挨拶をいただいた。



【来賓挨拶する千葉農村整備担当技監】

研修では、千葉農村整備担当技監が『令和4年度県予算について』と題して

講演を行ったほか、佐々木剛農村建設課総括課長が『本県における流域治水の取組について』、末吉康則クボタKSYS推進室シニアアドバイザーが『クボタのスマート農業用水管理について』、落語家の三遊亭楽春師匠が『笑いは健康の良薬』、気象予報士・防災士の大隅智子氏が『異常気象と防災』と題してそれぞれ講演を行った。

最後に、全国水土里ネット会長会議顧問の進藤金日子参議院議員が『農業農村の振興に向けて』と題し、今後農林水産業を発展させていくためには、それを支える基盤整備予算の安定確保、防災・減災対策、女性活躍などに取組むとともに、これらの取組に対する国民理解の促進が必要であると講演した。



【講演する進藤議員】

出席者は、徹底した感染対策の下で開催された2年ぶりの研修会で、様々な分野の見識を深めていた。



【研修会場の様子】

令和3年度絵画・写真コンクール入賞作品が決定

12月23日に本会主催の令和3年度『小中学生による「美しく豊かな村づくり」絵画コンクール』及び『「農村景観」写真コンクール』の選考会を開催し、絵画90点、写真59点の応募作品の中から入賞作品を決定しました。

各部門の入賞作品は、本会ホームページ (<http://www.iwatochi.com/>) に掲載していますので、是非ご覧ください。

また、過去の応募作品を本会ホームページに掲載し、ダウンロード出来るようにしていますので、名刺やポスターなどにご活用ください。

【 絵画コンクール 金賞受賞作品 】

● 小学校低学年の部



「かぶとむしを見つけたよ」

● 小学校中学年の部



「小麦のだっこく」

● 小学校高学年の部



「おじいちゃんの畑で野菜収かく」

● 中学校の部



「夕焼けの水田」

【 写真コンクール 最優秀賞受賞作品 】

● 風景部門

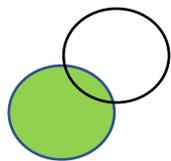


「赤コンバインと赤とんぼ」

● 人物部門



「秋仕舞い」



土地改良区だより

第2回 水土里ネットてるい (照井土地改良区)

県内位置図



【小野寺道雄理事長(前列中央)と職員】

本土地改良区の受益農地は、旧一関市と平泉町に在る磐井川・太田川の流域及び北上川一関遊水地に展開しています。

本土地改良区の受益農地へ用水を運ぶ照井堰の歴史は古く、今から850年前の平安時代に藤原秀衡の家臣だった照井太郎高春が開削したのが起源と伝えられており、世界文化遺産平泉と関わりが深く、時代時代の統治者が照井堰を守り継承されてきました。

土地改良区の変遷は、昭和27年に前身となる照井堰土地改良区が設立されて以降、昭和60年に大江堰土地改良区と合併し照井大江土地改良区となり、平成8年に平泉土地改良区及び舞川土地改良区と合併し照井土地改良区となった後、平成27年に東稲土地改良区と合併し現在に至ります。

現在、6地区のほ場整備事業を実施しているほか、平成28年に改良区単独で設置したRTK-GNSS基地局（測位衛星システムの位置情報の精度を上げる施設）と、令和2年度に補助事業にて増設した基地局2カ所を運用しており、GPSレベルャーや自動操舵システム31台（うちロボトラ5台）を導入し、リモートセンシングなどの先進的なスマート農業を推進しています。

また、平成22年から取り組んでいる小水力発電事業では、日本初の国産らせん水車を導入するなど、地球にやさしい再生エネルギーを創出しています。

平成30年に世界かんがい施設遺産に登録された照井堰用水をより良い形で後世へ伝えていくために、組合員や地域住民と一体となった管理運営体制を構築すべく、役職員一丸で様々な取り組みに挑戦していきます。



【大メ切頭首工】



【八幡沢発電所】

水土里ネットてるい(照井土地改良区)

【理事長】 小野寺 道雄

【所在地】 〒021-0027 岩手県一関市竹山町4番55号

【連絡先】 TEL : 0191-23-2135 FAX : 0191-21-0137 HP : <http://www.terui1170.com/>

【受益面積】 2,003ha 【組合員】 1,972名 【理事】 13名 【監事】 3名 【職員】 10名

編集後記

今回の記事にも記載しておりますが、1月20日の水土里ネット役員研修会には、多数の方々にご参加いただきました。

研修会のアンケートを見ますと、気象予報士・防災士でNHK盛岡おぼんですいわて気象キャスターの大隅智子（おおすみともこ）さんの講演がとりわけ好評でした。分かり易い説明と軽妙な語り口が、素晴らしいと現場で感じました。

またアンケートには、他土地改良区の役員と情報交換したいという声も複数寄せられました。

来年度は、コロナ渦が収束し、膝を交えながら交流を深められる研修会が出来ればと願っております。

(編集幹事)



発行所 岩手県土地改良事業団体連合会

〒020-0866 盛岡市本宮二丁目10番1号

TEL 019-631-3200

FAX 019-631-3260

<http://www.iwatochi.com>

編集発行人 千葉 匡